

小児（5-11歳用）ワクチン接種後の副反応に関する考え方（副反応疑い報告の状況に関するまとめ③）

最新の小児（5-11歳用）ワクチン接種後の報告状況の整理

- 副反応疑い報告制度において、2022年6月12日までに小児（5-11歳用）ワクチン接種後の副反応疑いとして報告された事例は以下のとおりであった。

【医療機関報告】

1回目接種 62件（0.0047%） 2回目接種 38件（0.0033%）

【製造販売業者報告】

1回目接種 71件（0.0054%） 2回目接種 31件（0.0027%）

であり、死亡として報告された事例は、2回目接種後1件であった。

- 疑い報告の症状名は、発熱、けいれん発作等であった。
- 心筋炎・心膜炎に係る報告事例は、以下のとおりであった。

【心筋炎】

1回目接種 ブライトン分類1-5 3件（100万回接種あたり2.3件） ブライトン分類1-3 0件（100万回接種あたり 0件）

2回目接種 ブライトン分類1-5 3件（100万回接種あたり2.6件） ブライトン分類1-3 0件（100万回接種あたり 0件）

【心膜炎】

1回目接種 ブライトン分類1-5 2件（100万回接種あたり1.5件） ブライトン分類1-3 1件（100万回接種あたり0.8件）

2回目接種 ブライトン分類1-5 0件（100万回接種あたり 0件） ブライトン分類1-3 0件（100万回接種あたり 0件）

ブライトン分類1-5：すべての疑い報告事例

ブライトン分類1-3：心筋炎又は心膜炎と評価された事例

小児ワクチン接種に関する論点のまとめ

- 小児（5-11歳用）ワクチン接種後の報告状況について、現時点においては、引き続き、ワクチンの接種体制に影響を与える程の重大な懸念は認められないと考えてよいか。